**第9課　神の国とその義とをまず第一に求めなさい　2020.3.15**

◎ 賛美: 韓日28番　◎ 使徒信条

◎ アイスブレーキング

先週一週間の暮らしを振り返り、自分が最も多く関心を傾けたものは何であったのか話してみましょう。

◎みことばの中へ

**テーマのみことば**

きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありましょうか。信仰の薄い人たち。そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。(マタイ6：30-33)

**みことばを広げよう**

**心配するのはやめなさい**

イエス様が働きをなされた当時のほとんどのイスラエルの民たちは生計の困難に遭っていました。古代社会は今日のように、農業技術が発達しておらず、ローマの植民統治の中でイスラエルの民たちは重い徴税圧迫に苦しめられたからです。イエス様はこのように、やっとのことで生きて行くしかなかったイスラエルの民たちに次のように語られました。“何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。”(マタイ6：31)。イエス様がこのように語ることのできた理由は彼らの傍には父なる神様がおられたからです。だからイエス様はイスラエルの民たちが続けて生計の問題によって心配するならば、異邦人、すなわち神様の民でない人々と何も変わらないと語られました。野に咲くユリの花、炉に投げ込まれる野の草さえも装ってくださる神様が神様の民たちの人生を、責任を取って下さらない訳がないからです(マタイ6：28-30)。

私たちもいつでも生活の問題に直面することがあります。生活の問題が近づいた時、心配することは当然のように思えるかもしれません。しかし救われた私たちには私たちを守られ、保護される良き神様がおられるので、心配せずにいられます。神様は私たちの必要を私たちよりも、よりよく知っておられ、いつでも私たちに良いものを与えることを願われます(マタイ6：32)。心配は神様に対する心配の欠如だと言うことができます。生活の困難が訪れた時、心配するよりも神様を信頼することで祈り、忍耐する私たちにならなければなりません。

Q : イエス様は心配で、食べること、飲むこと、着ることを求めることはどのような人がする行為だと語られましたか？

**神の国とその義とをまず第一に求めなさい**

イエス様は私たちに心配してはならないと言われた後、‘神の国とその義’を求めなさいと言われました(マタイ6：33)。神様の国とその義を求めなさいということは私たちの暮らしに神様の統治が臨むように望みなさいという意味です。言い換えれば、暮らしの問題と苦痛によって心配し、戦々恐々するより、神様のみことばに完全に従順することで私たちの暮らしを神様に完全に捧げなさいということです。

ひいては神様の国とその義を求めなさいということは、この地で神様のことに献身しなさいという意味です。生活の困難が生じる時、もしかすると私たちは神様に仕えることを止め、生業と関連したことに没頭しないといけないと考えるかもしれません。しかし生活の困難がぶつかって来ても、私たちは神様を仕えることを止めてはなりません。“神の国とその義とをまず第一に求めなさい”というみことばのように、私たちはどのような状況に置かれても“まず”神様のことをしなければなりません。

Q :神の国とその義を求めるとはどういう意味でしょうか？

**すべて与えられます**

イエス様は神の国とその義を求めると、神様が私たちにすべてを与えてくださると言われました。生活の困難は私たちが努力するからといって解決されません。私たちの暮らしと万物を主観される方は、神様であられるからです。神様がくださらなければ、受ける者はなく、神様が取られれば、取り返すことのできる者はいません(ヨブ1：21)。したがって、生活の困難が解決されるのか否かの余地もまた神様の手にかかっています。生活の困難とあらゆる問題が近づいた時、すべての心配を神様にゆだねてください。そして神様に仕えることを怠けずに、みことばに従順することで、神様の統治が私たちの暮らしに臨むように願ってください。そうすると神様が私たちにすべてを与えてくださるでしょう。

Q :神様は私たちが何をする時、私たちにすべてを与えてくださいますか？

**◎ 暮らしの中へ**

1. 暮らしの問題が近づいた時、心配するよりも黙々と神様を仕えたら、神様がその問題を解決してくださったことがあるならば、分かち合いましょう。また現在、暮らしの中で経験している問題があるならば、区域員と分かち合い、共に祈りましょう。

何より、問題の前で信仰が揺れずに、ますます堅固になるように祈りましょう。

2. 神の国とその義を求める具体的な方法は人によって違います。現在、自分の暮らしを振り返り、私はどのような方法で神様の国とその義を求めて生きなくてはならないか考えてみて、分かち合いましょう。

- ソン執事は小学校低学年の娘と、幼稚園児の息子を育てる平凡なお母さんです。まだ子供たちが幼いので、社会生活もしばらく下して、家事と育児にだけ専念しています。結婚前のソン執事は教会では奉仕、会社では伝道に力を尽くして情熱的な信仰人でした。しかし現在は昔ほど、奉仕をすることも、社会生活をすることもできない状況に置かれてしまいました。だからどのようにすれば、今の自分の位置で神様の国とその義を求めることができるのか祈り、悩みました。祈りと悩みの果てに、ソン執事は‘神様が自分に任せてくださった二人の子供を信仰の中でしっかり育つようにすること’、‘最近よく会っているお母さん友達に、言葉と行動を通して福音を伝えること’が神の国とその義を求めることであるという悟りを得ました。

**◎ 決断と祈り**

**決断の告白**

· 暮らしの問題が近づいた時、心配するよりも、祈りの場所に進み出ることを決断します。

· まず神の国とその義を求め、神様が私たちの必要を満たしてくださることを見上げることを決断します。

**祈り**祈りの課題を分かち合い、今日のみことばを考えながら伝道対象者のために声を出して祈りましょう。

**今日の祈り**

神様、暮らしの問題が近づいた時、心配してためらうより、その問題を掴んで神様に進み出るようにしてください。私たちが心配するからといって問題が解決される訳ではないことを知っています。ただ全ての問題を解決される神様に祈るようにしてください。暮らしがどれほどつらく、苦しくてもまず神の国とその義を求めるようにしてください。私たちより、私たちの必要をよく知っておられ、溢れるように満たしてくださる神様に感謝と栄光をお返しし、イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

**◎ 主の祈りで終える**

**関連聖句**

· 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。(ピリピ4章 6∼7節).

· 主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。主は、あなたの義を光のように、あなたのさばきを真昼のように輝かされる。

 (詩編 37編 4∼6節)